



守口支部

補聴器助成

市当局から『2025年4月から実施の方向で検討している』

答弁引出す



2020年(令2年)に守口支部単独で補聴器助成陳情書を守口市議会に提出して以来、毎年陳情書を提出し会派回りしてきました。2024年度からは更に運動を広げるため、新婦人の会守口支部と共同で提出。更に2025年度からは守口社保協もキャラバンで補聴器助成を取り上げ、市と話し合いを開始。運動を広げる中、昨年(12月)議会の福祉教育委員会の審議で、市当局は「2025年4月から予算を計上して実施の方向で検討している」との回答がありました。

「これまでの交渉で、「国が助成するなら」「考えていない」「予算がない」等をくり返していた当局の回答が大きく前進しました。

高齢者にとって耳の聞こえが悪ければ外に出るのが面倒になり、1人で過ごす時間が多くなり、うつや認知症につながると指摘されています。ひとり暮らしの高齢者をつくらないためにも補聴器は必需品です。しかし、補聴器は高額です。年金暮らしにはおおいそれと手が出ません。行政の補助が必要です。

昨年の12月議会の議事運営委員会で審議された「国への意見書」は、維新の会の見送りで否決されましたが他の4会派は賛成。この陳情項目も大きく動き始めています。(守口の委員会では会派全委員の賛成が前提)

守口支部は、引き続き、他団体にも更に広げ、市独自の補聴器助成制度実現、国への意見書採択、特定検診に聴力検査を求めて、粘り強く運動を展開していきます。守口支部書記長 平井 康夫

安心して暮らせるまちづくりをすすめ地域の協力協同を広げよう

年金者組合は、地域を基礎に活動する組織です。地域で高齢者の要求を実現する「まちづくり」はもっとも大きな活動の一つです。多くの支部では、「地域交通の充実」「補聴器購入制度の実現」「高齢者生活支援の充実」など、地域の具体的な要求を行政、議会に向け要請、請願などを行っています。そのため、地域の団体との協力協同は欠かせません。だれもが安心して暮らせるまちづくりを目指して、地域での協力協同を広げましょう。

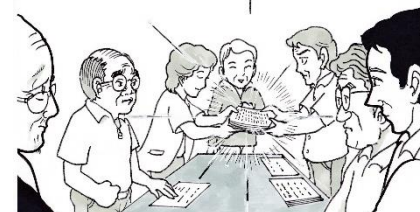


考えていない

国が助成すべき

予算がない

障害者には補助制度があるので障害者の申請を



大阪年金者組合

聞こえのバリアフリーを!

補聴器助成推進ニュース

2025.1.10 20号

大阪市北区天神橋1-13-15 大阪グリーン会館6階
TEL06-6354-7207 FAX06-6354-7746

